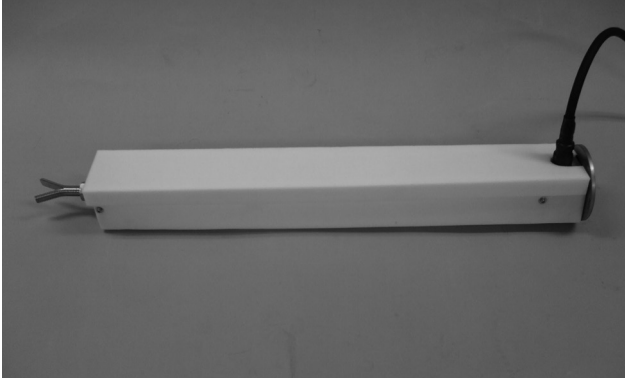


# 新型 コンクリート有効応力計

若材齢から  
精度良く測定する

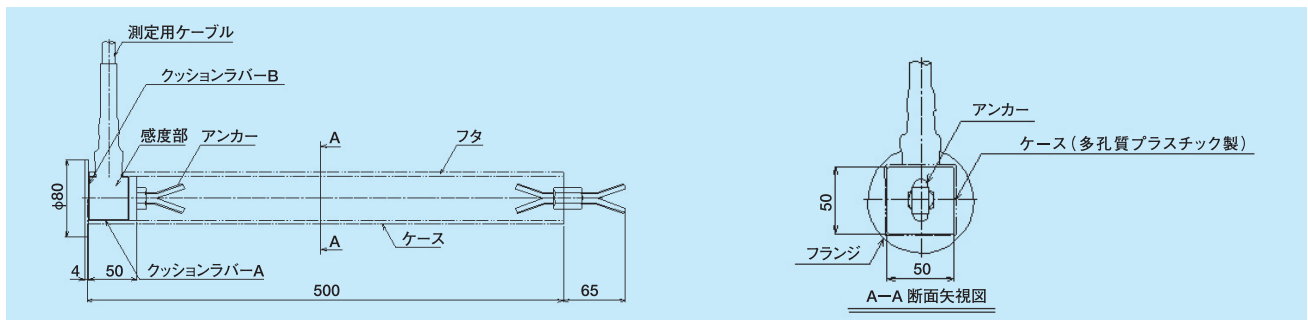
## GK-1N-2E

※型式の1は測定範囲を ※2は寸法202,303または505を示します



これまでの有効応力計の問題点であった、初期材齢時の無応力状態に圧縮応力が出る点を、縁切り材を低剛性に改良するなどして、材齢初期の段階から十分硬化した段階まで連続して精度良く測定することができます。

用途に応じて、従来と同じ角型と新たに丸型でも製作いたします。



型式	GK- <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span> N-303E (GK- <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span> N-505E)					GK- <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span> N- <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2</span> T		
測定範囲 ( <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1</span> )	6	10	20	30	36	40	6	10
定格出力 (RO)	1.0mV/m					0.9		
定格出力ひずみ	2000×10 <sup>-6</sup> st					←		
直線性	←					←		
ヒステリシス	←					←		
許容過負荷	←					←		
許容温度範囲	←					←		
最大印加電圧	←					←		
入・出力抵抗	←					←		
絶縁抵抗	←					←		
許容耐水圧	0.8MPa					←		
温度測定範囲	←					-10～+80℃		
測温機能	←					熱電対		
寸法	30 <sup>□</sup> ×L300 (フランジφ50) 50 <sup>□</sup> ×L500 (フランジφ80) mm					←		
質量	約2.0kg					←		
ケーブル	←					S4-3T (補償導線入複合6心ケーブル 0.3mm <sup>2</sup> 4心、シングルシース)		
ケーブル標準長	←					1m		

■コンクリート有効応力計の寸法には各種ありますが、その選定の基準は測定対象コンクリートの粗骨材平均粒径の2倍以上が目安となります。

例：平均粒径が10mmの場合は、GK-1N-202Eとなります。

■極性は、+：圧縮、-：引張です。

■直線性とヒステリシスの数値は、変換部本体のものです。

■測温機能付きは、S4-3Tのケーブルで6心のうち2心が補償導線です。納期については、予めお問合せください。